



春と少し違う秋の花粉症

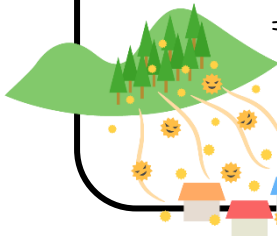
秋の気配が濃くなり、秋の花粉症の季節がやってきました。

春の花粉症はスギやヒノキ、秋はブタクサ、ヨモギ、イネ科など、原因となる植物は異なります。そのため、症状の出方に違いがあるということです。



春

樹木の花粉であるため何百kmも離れた所から飛んでくるため、飛散範囲も広く、いる場所に関わらず一斉に症状が出始め、長い期間症状が続きます。



秋

雑草の花粉であるため飛散距離は数kmから数十kmであり、場所によって飛散状況が異なります。そのためいる場所によって症状が出たり出なかつたりが短い周期で繰り返されます。

春に比べ認知度が低いため、気づいていないこともあるかもしれません。毎年同じように不調を感じる場合は、「隠れ花粉症」の可能性もあります。

ただし、花粉症の症状である咳や倦怠感は、新型コロナウイルス感染症と症状が重なるため判断がつきにくいことも考えられます。不安を感じたら医療機関への相談をお願いします。

— 出典 — エステー(株)「ニューノーマル“秋花粉症”対策ガイド」

スズメバチにご注意ください！！

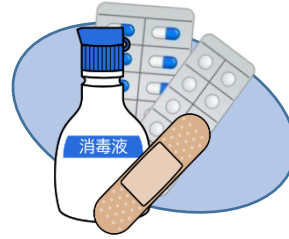
野外活動のしやすい季節になりました。毎年この時期になるとスズメバチによる被害が報道されます。個体数も増え攻撃性も増しているため遭遇を避けたいところですが、野山に限らず人家の軒下や土の中にも巣をつくるので注意が必要です。本会でも訪問先のお宅で刺されて労災申請した例があります。

不用意に刺激することのないようハチの習性を理解して、また、万一刺されてしまったときの対処法などについて確認しておきましょう。

- スズメバチは黒色(黒髪も含む)に対して激しい攻撃性を示しますので、明るい色(白色や黄色など)の帽子や服を着用してください。また、化粧品やジュースなどのおいもスズメバチを刺激します。
- 近くにハチの巣がある場合は、低姿勢で速やかにその場から離れてください。
- 刺された場合は、流水で患部を洗い流しながら、毒と血液を一緒にしぼり出してください。(口で吸い出すと毒が体内に入る恐れがあります)
- ハチ毒アレルギー体質の人は重篤化することがあります。全身症状が出た場合は一刻も早く病院で手当てを受けてください。



救急箱、定期的な点検を



ほぼ全ての事業所が万が一のために救急箱を備えているかと思います。

労働安全衛生規則では事業所で備える救急用具については、下記の通り定められています。

(救急用具)

第六百三十三条 事業者は、負傷者の手当に必要な救急用具及び材料を備え、その備え付け場所及び使用方法を労働者に周知させなければならない。

2 事業者は、前項の救急用具及び材料を常時清潔に保たなければならない。

救急箱には負傷についての備えだけでなく、突然の体調不良に対応するための薬を入れていることもあるかと思いますが、その場合には使用期限が切れていることがないように、定期的な点検をお願いします。使用期限が切れた薬は気温や湿度、紫外線によって化学変化を起こし、違う物質に変化してしまう恐れもあります。「少しだけなら大丈夫」と思わず、思い切って処分するようにしましょう。瓶入りの物などについては、開封されている場合は使用期限に関わらず、開封後半年を目途に処分をしましょう。

ただし、あくまで緊急用であるので、基本的には自分に必要かつ適切な薬を自身で薬剤師から説明を受けたうえ購入し服用することをお願いします



- ◆救急箱の中身を把握できていますか？
- ◆薬・消毒薬の使用期限は切れていませんか？
- ◆開封後長期間経過薬はありませんか？
- ◆誰かが勝手に入れた薬はありませんか？
- ◆要指導医薬品や第1類医薬品などが混ざっていませんか？

新型コロナウイルス感染症

“ワクハラ”にご注意ください

新型コロナウイルス感染症に対するワクチンの接種が進んでいます。9月26日現在での日本の接種率は1回目終了68.9%、2回目終了57.4%とのことです。

そのようななか、「ワクチンハラスメント」略して「ワクハラ」という言葉をたびたび耳にするようになってきました。

ワクチンを接種しない人に対して接種しないことを責める、不当な差別をすることです。

アレルギーがあるなど、接種「できない」人、副反応に対して強い不安を抱いているなど、人により事情は様々です。ハラスメントまではいかなくても、軽く「何で打たないの？」というだけでもプレッシャーをかけてしまうこともあるかもしれません。

ワクチンを打つ人打たない人、それぞれの立場を理解し合い、それぞれができる感染予防をしていきましょう。